

News

2004年初夏号

特定非営利活動法人

都市生活コミュニティセンター

〒663-8231 西宮市津門西口町7-3

TEL 0798-36-6679 FAX 0798-36-5114

「ターミナルケア研修」をおえて

講師の黒田裕子さんは看護師として、権威あるポジションを得られたのに、震災後仮設のお年寄りのために、奔走されることを選ばれた人です。弱い立場にたたされたかたの事がよく解っていらっしやるので、その優しいお人柄がにじみ出て、厳しくためになる講座でした。3回連続講座という事でしたので、受講したヘルパー同士だんだん気心も知れ、最終回後には悩みを共有したお友達になり、昼食交流会も開かれたようです。

(T. N)
悲しみは残っても良
いが苦しみの残らない
ケアをと言うことを教
えて頂きました。また、
われわれはお金をもら
って、自分が成長させ
てもらっているつもり
で、未来に向けて、よ
り良いヘルパーを目指
したいと思いました。

(K. M)
作業と仕事の違いが
印象的でした。作業と
は与えられたことを当
たり前にすること。仕
事とは与えられたこと
を、問題意識を持って
考えながらすること。
ヘルパーの仕事はまさ
にここかと思われまし
た。責任者の仕事とし
て、一人一人のヘルパ
ーにどこまで仕事とい
う意味を伝えられる
か、わかりあえていく
のか、今年の目標がで
きました。

受講者の声・声・声...

(H. T)
まず、自分がヘル
パーとして、どうあ
るべきか、どうして
いくのか考えさせら
れました。私たちは
現場で、お金の換え
られない勉強をさせ
てもらっている。五
感を働かせて、見る
力、聴く力をつけ、
考える介護をしなけ
ればならないと言っ
たことを学びました。

(K. H)
コミュニケーション
ョンで質問、アド
バイスは少なくし
て、沈黙は多くす
る。間を取ることに
間の大切さを痛感
しました。観察に
始まり、観察に終
わる。五感を働か
せ、相手に寄り添
い仕事をしていき
たいと思います。

～インフォメーション～

- ホームヘルパーのためのスキルアップ講座 (ターミナルケアについて学ぶ) 講師：黒田裕子氏
8月1日(日) 8月29日(日) 9月5日(日) 10:00~15:00 3回連続講座 会場：神戸市勤労会館
- 講演会 引きこもりは病気ではない 講師：西嶋彰氏 (NPO法人ニュースター事務局関西代表)
7月22日(木) 13:30~16:30 会場：西宮市市民交流センター
- 講演会 遺言の書き方 講師：永井幸壽氏 (弁護士)
8月7日(土) 13:30~16:30 会場：西宮市市民交流センター



成功させよう！7.17 フォーラム

発見・もうひとつの暮らし

震災10年市民検証・中間フォーラム

NPO法人都市生活コミュニティセンターは震災10年市民検証研究会のメンバーです。2005年1月17日に震災10年を迎えます。そのちょうど半年前の7月17日に、中間フォーラムが行われることになりました。震災後、被災地で市民活動が進められた事を検証しみんなで共有したいという想いです。私たちは被災者でもあり、

活動を進めている当事者でもあります。この機会に私たちの仲間は、どのような活動を行い、地域づくりに貢献してきたのか考えてみましょう。参加して発言することこそが、このフォーラムの成功の第一歩です。参加して成功させましょう。

フォーラム開催日 7月17日(土) 10:00~17:00 (9:30~受付)

会場 ●神戸市教育会館 大ホール (基調講演) **参加費** ●500円

主催 ●震災10年市民検証研究会 ★**後援** ●生活復興県民ネット

■**基調講演** 「震災10年から何を学ぶか」 10:30~11:30
室崎益輝さん (独立行政法人消防研究所理事長)

■**分科会** 13:00~15:30

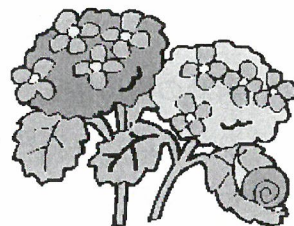
A)市民が担い、市民が決める地域社会 (まちづくりとガバメンツ)

B)市民のニーズに、市民のサービスで応える (コミュニティ・ビジネス、中間支援組織)

C)学びと文化の拠点を地域に開く (文化と教育)

D)社会的防災力の強化と市民の役割 (市民防災)

■**全体会** 15:50~17:00 **懇親会** 17:30~県庁2号館地階「のじぎく」懇親会費 3,000円



新聞記事より

傷つけるより育てよう、ブドウ栽培で武装解除ーアフガンで計画

◇神戸のNGO 神戸市にあるNGO「海外災害援助市民センター(CODE)」が、アフガニスタンの農村でブドウ作りを通じた武装解除を進める計画を始めた。日本政府も先月からDDR(元兵士の武装解除・動員解除・社会復帰)事業を本格的に進めている。今月、現地入りした事務局長の村井雅清さん(53)は「市民レベルでも、ブドウの木と共に真の平和を根付かせたい」と話している。CODEは02年1月、阪神大震災の被災地NGOのスタッフらで設立。被災地での活動の経験から「暮らしの再建」にこだわる活動を続けている。

毎日新聞 2004年6月25日 大阪夕刊

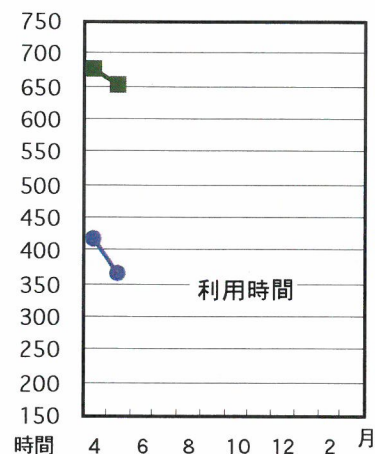
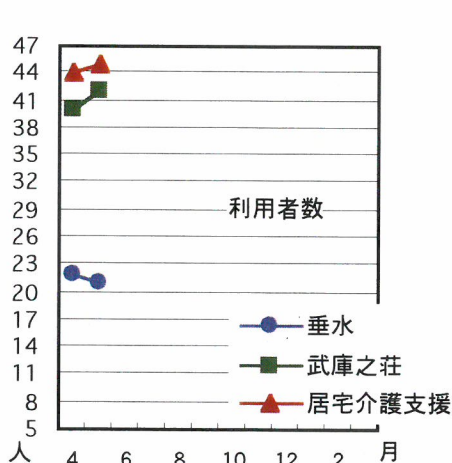
2004年度☆介護保険事業報告

★あ・し・す・と (垂水)

★あしすと武庫之荘 (尼崎)

●現在、2つの事業所を拠点に都市生活組合員が中心となってヘルパー派遣事業を行っています。

●武庫之荘では居宅介護支援事業(ケアプラン)も行っています。



2004年7月1日発行